SHIBETSU ROTARY CLUB DISTRICT 2500 JAPAN

士別ロータリークラブ

創立 1960・3・24 RI第2500地区 Vol. 26 No. 2539

2015-2016年度国際ロータリーのテーマ

2015-2016年度　国際ロータリー
会長　K．R．ラビンドラン

2500地区ホームページアドレス　http://rid2500.jp/
士別ロータリークラブ　http://www.douhoku.jp/sibeturc/

2015-2016年度士別ロータリーのスローガン

ロータリーを活かそう

■例会場／士別グランドホテル
■例会日／毎週月曜日　12:10～13:10
■事務所／士別グランドホテル　TEL　0165-23-1234
■会　長／伊藤優市　■副会長／加藤　博
■幹　事／近井孝義

第２６２０回例会　２０１６年２月29日（月）

今日のプログラム

・・夜間例会（移動例会 レストランミュー）

前回（２月22日）の記録

普通例会　・ゲスト卓話

・司　　会　阿達勇副会場監督
・斉　　唱　奉仕の理想
・本日の出席　会員48名　出席29名　出席率60.42％（修正75％）
・本日の欠席　相山佳則、穴田俊昭、今井　裕、加藤　博、北村浩史、菊地昭通、菊地　仁、國森和麿、黒田康敬、近藤峯世、田中道也、千葉繁夫、奈良康弘、深尾幸夫、藤本克博、松塚信雄、本山忠之、山本俊一、渡辺正一

・ビジター
・ゲスト　苔口千笑様（一般社団法人士別青年会議所第60代理事長）

・ニコニコBOX　織戸俊二会員（士別地区緑十字会会長就任）
佐藤和彦会員（1月24日 80回目製糖終了、2月18日 80周年祝賀会終了）

累計 236,000円

例会予定

■３月例会日【水と衛生月間】

- ●３月７日（月）　例会・理事会
- ●３月14日（月）　例会
- ●３月21日（月）　休会（法定休日：振替休日）
- ●３月28日（月）　夜間例会

■４月例会日【母子の健康月間】

- ●４月４日（月）　例会・理事会
- ●４月11日（月）　例会
- ●４月18日（月）　例会
- ●４月23･24日（土･日）　PETS･地区協議会
- ●４月25日（月）　夜間例会

■会務報告　伊藤優市会長

●日本甜菜製糖士別製糖所が操業80周年を迎えられました。おめでとうございます。
●2月20日当クラブ名誉会員牧野勇司士別市長の市民の集いに出席しました。
●織戸俊二会員が全日本交通安全協会の交通栄誉賞「緑十字銀章」を授与されました。
●2月6日相山会員が自宅にて骨折し入院されました。現在は自宅療養中です。
●「働かない蟻」の話題です。一見無駄に思えるが集団の長期存続には必要な存在。短期的な効率を求めすぎると組織にとってはダメージになりうるらしいです。

■幹事報告　近井孝義幹事

1.次週の夜間例会は、ミューにて行います。当ホテル5時40分頃に出発致します。欠席の届けは通常当日3時迄ですが移動例会の為、前日迄にグランドホテル事務局迄連絡をお願いいたします。
2.幹事報告ではありませんが全道安全運転管理者協会より交通死亡事故が年間200人を超える勢いで増えており先日多寄町でも発生しております。士別地区安全運転管理者協会でも全道に合わせてパトライト作戦を行います。日時は、2月25日午後5時30分より30分間行います。安全運転管理者事業所の方々は、ご協力をお願いいたします。

■次年度幹事報告　高山稔次年度幹事

1.2月8日13時、第1回次年度役員会を開催致しました
また、2月25日18時居酒屋やまもとにて第1回理事会を開催致します。
2.2016～2017年度RI会長はジョンF.ジャーム氏
（米国テネシー州チャガヌーガＲＣ所属）
次年度ＲＩテーマ「人類に奉仕するロータリー」
3.2016～2017年度2500地区ガバナー
駒形曙美(あけみ)氏　北見ＲＣ所属
第２分区ガバナー補佐
梅野博氏　名寄ＲＣ所属
4.8月29日 16:30～19:30　ガバナー公式訪問例会
5.地区役員(会員増強委員会)→奈良会員増強委員長
6.ロータリー手帳の購入希望者は連絡ください。

■ゲスト卓話　士別青年会議所理事長　苔口千笑様

士別青年会議所第60代理事長を務めさせて頂いております、苔口千笑と申します。本日は、所信で述べさせて頂いたこのまちについての想い、そして今後の展望などを述べさせて頂くに至った経緯をお話しさせて頂きます。

私は国道沿いでCUTiE BABYという子ども用品の店を経営しております。2008年に起業し丸８年が経とうとしております。なぜ開業をしたのか？とこれまでに何度も問われました。答えはシンプルで、自由になるお金と時間が必要だったからです。初子がわずか3ヶ月で川崎病という当時は難病のカテゴリーの病気にかかりまして、1歳を過ぎるまでずっと入退院を繰り返しておりました。当然私も付き添いで病院に寝泊まりしておりました。子どもが１歳を迎える頃にはもしかしたら一生病院に出たり入ったりを繰り返すのかもしれないと感じ、私は普通に勤めては働けないだろう、さらに高額医療を受けなければならない時がくるかもしれない。この子のためには私自身が自由になるお金も時間も手に入れておかなければならないのではないか。そう考え、起業をしました。どうせやるのなら大変でもやりたいことをしよう、との思いで、当時私自身の経験からも強く感じていた妊娠・出産時にあんな物が欲しかった、こんな物があれば良かったのにという思い入れのあったベビー用品の店に至りました。

開業当時、こんな子どものいない地域で子どもの店をやってどうするんだ、趣味？？、そんな事をしょっちゅう言われておりましたが、子どものいない＝ゼロ　ではない、間違いなく需要は有ると、根拠は無くとも確信だけは有りました。実は息子も3年前に初めてインフルエンザにかかったという位に川崎病完治後全く医者いらずなまま成長し、その後娘にも恵まれ、店と育児に手一杯な生活をしておりました。ですが、時折耳に入ってくる地域の諸問題に対し、なぜだろう？どうしてそうなるのか？と、釈然としない思いが有りました。数年前、士別の子どもの出生数が100人を切ったと聞き、これまでにない危機感に襲われました。単純な人口減の問題だけではなく、子どもが絡む地域の施設やそこで働く雇用の問題にも直結し、職を失った若年女性が職を求めてこの地域を出て行ってしまう可能性もあります。大変なことだ、なんとかしなければならない、とは思うもののどうして良いかも解らず、ならばまずはこのまちを知ろう、このまちを誰がどう動かしているのかを知ろう、そもそもや成り立ちを知らずに大変だと思っているだけでは何も始まらない。そこで、私は、どうすればこのまちにおいての諸問題に参画していけるのかを知るために青年会議所への入会を決意しました。

入会後はおかげさまで、たくさんの情報や機会、そしてご縁をいただき微力ながらもこのまちの一旦を担わせていただく機会を得ていることは、大変有り難いことでございます。更に本年は、理事長という任を務めさせて頂いているからこその機会を多く頂き、身に余る世界を勉強させて頂いていると自覚し、本年はもちろん、また青年会議所を卒業した来年以降も、このまちの未来を明るい豊かなものとすべく精一杯努める所存でございます。今後ともよろしくお願い致します。